

vol.22

START UP Company

今月の注目スタートアップ

ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社
FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。

liberaware
CO.,LTD.

＃見えないリスクを可視化し、
誰もが安全な社会を実現する



業界最小クラスのドローン「IBIS」

株式会社^{リベラウェア}Liberawareは「狭く・暗く・汚れた」かつ「屋内空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションの提供をメインに事業展開を行っています。

誰もが安全な社会の実現を求めて

我が国では、製造業や各自治体での高度経済成長期に建設・整備されたプラントやインフラ設備において、設備老朽化や人手不足による整備作業負担とコストの増大が顕在化しており、産業基盤のDXによる「機械化・遠隔化・自動化」の推進が喫緊の課題となっています。

そのような課題を解決するために、弊社は「誰もが安全な社会を作る」をミッションに掲げ、世界でも珍しい「狭く・暗く・汚れた」かつ「屋内



空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン「IBIS」の開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションをどこよりも早く手掛けてきました。

業界最小クラスの

自社開発ドローン「IBIS」

弊社が開発したドローン「IBIS」は、寸法20cm、重量185gと業界最小クラスの機体に、高度な姿勢制御機能を搭載しており、狭小で複雑な設備内部での安定飛行、高精度の撮像を実現する産業用小型ドローンです。

「IBIS」を活用することにより、点検期間の大幅短縮による工場稼働率を向上（機会損失の低減）、足場費用や工期短縮による人工等のコストを削減。危険なエリアへ作業員が入る必要がなくなるため、安全面にも貢献します。さらに、取得した動画及び画像データから生成する三次元データを用いて、設備保全の高度化を推進し、生産の安定化・効率化を図ります。

多角的なデータビジネスの 拡大を目指す

弊社は2030年までの経営ビジョンとして

「見えないリスクを可視化する」を掲げており、これまでも自社開発のドローンを駆使し、人の作業では確認できなかったエリアの点検を可能にし、ビジョン達成に向けて事業を推進してきました。

現在は、狭小空間に侵入可能な産業用ドローンを中心とした事業としていますが、J-R東日本グループと共に合併で設立した「C^{カル}a^ルITA株式会社」での点群データ管理運用のクラウドサービスの拡大や、BIM化事業（※）・自動ドローンの開発等により、より先進的で現場のオペレーションに根付いた手法で、様々な産業でリスクを可視化できる社会の実現を目指します。

（※）BIM（ビルディング インフォメーション モデリング）：…コンピュータ上に現実と同じ建物の立体モデル（BIMモデル）を再現して、様々な情報をデータベース化し、建築物及び土木構造物の設計、建設及び維持管理の生産性を向上させる仕組み



会社概要

株式会社Liberaware

代表者名 関弘圭（ミン・ホンキュ）
所在地 千葉県千葉市中央区中央3-3-1
フジモト第一生命ビル6階
メールアドレス pr@liberaware.com
ホームページ https://liberaware.co.jp/

